
寝苦しい

VISIA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寝苦しい

【コード】

N9121U

【作者名】

VISIA

【あらすじ】

今日も寝苦しい夜になりそうです。

(前書き)

暑い日に熱いものを食べるように、寝苦しい夜にはこんな話を…

その日の夜は、とても蒸し暑く寝苦しかった。

クーラーは壊れていて使えず、扇風機は古くてうるさいので逆に眠れない。

窓を開けて寝ようとしたら網戸が破れていて虫除けにならなかつたので、全身に虫除けの薬を塗って窓を開けて寝ることにした。

夜中の2時。

部屋の蒸し暑さは未だ変わらず、脳を流れるぬるい血液が眠りを妨げていた。

我慢してつぶっていた目を開き、水を飲みに起き上がろうとした時、体が固まって動かなくなった。

初めての金縛りだった。

体は動かせなかったが視線を動かす事はできたので、周りの様子をあちこち探っていると、仰向けに寝ている自分の右側に大きな腹をした誰かが寝ていた。

自分は独り暮らして、彼女もいないから隣が誰なのか検討もつか

ない。顔を見ることは出来なかったが、イビキの声で男だと思った。その男の体温がジリジリと伝わってきていた。

気分だけでもその男から逃れようと視線を左へ反らすと、そこにも同じような腹の大きな誰かが寝ていた。

2人の谷間で更なる寝苦しい夜を金縛りのまま不自由にしていると、両側の男達が自分めがけて突然寝返りをうってきた。

……ああああああっ

布団よりも保温効果の高い、2つの湿った重い体に潰されそうになった。そして暑さと熱さでだんだん意識が遠くなっていった。

4

……ああ、目の前に川が見える。水浴びしていいのかな……

川に近づいて、流れる清流に手を入れてみると、30後半くらいのぬるいお湯だった。そのお湯の温もりが体全体に伝わっていく。

……あ、あれ？

水から手が抜けなかった。手から伝わってくる温もりが、体の中

に蓄積していくのか、汗が出始めた。

何とか手を水から抜こうと必死になるほど、汗が吹き出してくる。

やがて喉が乾いて、仕方なく川の水を飲んだ時、あまりの塩辛さに驚いた。

目が覚めた。

……。

布団に仰向けに寝ていた自分が、上に覆い被さっている男の汗をなめていることに気が付いた。

いくら寝ぼけているとはいえ、自分の行為に恐怖し混乱して必死にもがき続けた。

そして、朝が来る頃には汗だくで、気絶するように疲れて眠っていた。金縛りは解け、両側の男達も姿を消していた。

結局、あの男達は誰だったのだろうか？

……女性だった良かったのに。

仰向けで、汗で濡れた布団に横になったまま、天井に貼った女子プロレスラー達のポスターを見ながら、昨夜の事を思い出していた。

(後書き)

今夜はどうか女性に囲まれますように…

その夜、金縛りの後に現れた女性が冷え性だった為か、一晚抱きつかれていたら風邪をひいてしまった。

朝になって鏡を見たとき、酷いやつれようだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9121u/>

寝苦しい

2011年10月6日18時02分発行